



# まんだらげ

Vol. **55**  
2021 WINTER



田原海岸（串本町）

## Contents >>>

- 特集1** …… 膀胱がんセンター「膀胱がんドック」を開設  
**特集2** …… うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激治療 (rTMS 治療)  
**Topics** …… 小児医療センターの中央部門化  
美容後遺症外来の開設、薬学部設置認可  
**Information** …… 認知症疾患医療センター第9回市民公開講座  
リュウマチ・膠原病センター地域連携講演会  
パーキンソン病の脳内ネットワーク異常を解明  
胃のペースメーカー活動と運動性の同時測定に成功  
待合番号アプリ案内 ほか

### 理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

### 基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な説明と同意のもとに、安全で心のこもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

### 広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

# 膵がんセンター「膵がんドック」

膵がんは初期の段階で発見することが難しく、見つかった時には既に進行しているケースが非常に多いがんです。

当院膵がんセンターでは、消化器内科・消化器外科・放射線科・病理診断科などが連携して膵がんの

診断・治療にあたっており、膵がんの早期発見に特に力を入れています。

この度、膵がんの早期発見・治療を目指し、新たに「膵がんドック」を2021年2月から開設しますのでご紹介します。

## 膵がんとは

膵臓は、胃の後ろにある長さ20cmほどの左右に細長い臓器で、食物の消化を助ける消化酵素を含んだ膵液と、血糖値の調節を行うインスリン等のホルモンを分泌する役割があります。この膵臓の細胞の一部が変異を起こして悪性腫瘍化したものが膵がんです。膵臓は、胃の後ろの体の深いところに位置していることから、がんが発生しても症状が出にくく、

早期発見が難しいがんの一つで、通常健康診断では中々早期に見つけることができません。

そのため、自覚症状が出てから診断された場合はがんの進行度合いを表すステージが相当進んでいる(1~4のなかで3及び4)ことが多く、がんの中でも特に治療が難しいがんであると言われています。

## 県内における膵がんの現状について

膵がんの患者は年々増加傾向にあり、国立がん研究センターの「2018年のがん統計予測」では膵がんの年間罹患数予測は40,000人で、前立腺がんに次いで6位、年間死亡数予測は34,900人で、胃がんに次いで4位となっており、悪性新生物(がん)の主な部位別にみた年次死亡数(人口10万対)は近年肝がんを抜き、胃がんに次いで第4位になっています。

また、平成29年の国立がん研究センターによるがん登録・統計によると、和歌山県は人口10万人に対

する膵がんによる死亡者数が全国ワースト3という状況で、膵がんによる死亡率が特に高い傾向が示されています。

当院ではこうした現状を克服すべく、2019年9月に膵がんセンターを開設し、最新の超音波内視鏡を使用した検査を年間約2,000件実施しています。また、膵がん手術件数は平成29年の実績で西日本2位であるなど、膵がん診療に力を入れた取組を行っています。

## 検査内容について

膵がん治療においては早期発見が何よりも重要です。膵がんセンターの膵がんドックでは自覚症状がない方でも膵がんの有無を調べることができる下記

3つのプランを用意しています。なお、膵がんドックは自由診療となるため、費用はすべて自費になります。

プラン名	内容	検査内容	料金(税込)
プラチナプラン (毎週火・木曜日実施)	胆・肝・膵すべて診る最も充実したプランです。超音波内視鏡検査(胃カメラ)も行うので、胃の状態も診ることができます。	・血液検査 ・腹部エコー検査 ・MRI検査 ・超音波内視鏡検査	120,620円
ゴールドプラン (毎週月・金曜日実施)	胆・膵を診るプランです。超音波内視鏡検査(胃カメラ)も行うので、胃の状態も診ることができます。	・血液検査 ・MRI検査 ・超音波内視鏡検査	113,140円
シルバープラン (毎週水曜日実施)	精密腹部エコーで胆・肝・膵を診るプランです。検査が比較的短時間で済み、超音波内視鏡検査(胃カメラ)がないので体への負担が少なく、超音波内視鏡検査に抵抗がある方向けの検査です。	・血液検査 ・MRI検査 ・膵精密エコー検査	99,560円

# ク」を開設します！

## 膵がんドックの検査内容

### (1) 血液検査

膵酵素、腫瘍マーカーの数値を参考に膵がんの疑いがないか検査します。

### (2) MRI(MRCP) 検査

強い磁場を有するトンネルの中に入り、胆汁や膵液などの液体の部分だけを抜き出し、体の中を画像化して病気を発見します。放射線を使用しないため、比較的体への負担が少ない検査です。

### (3) 腹部エコー検査 (US)

人間には聞こえないほどの高い周波数の音(超音波)を体の外から当て、反射した音から目的の部位の画像を作ります。超音波は人体

に無害で、痛みもありません。

膵がんドックで実施するエコー検査では、観察範囲を基本的に胆のうや膵臓の周辺に絞り、疾患の発見に努めます。

### (4) 超音波内視鏡検査 (EUS)

胃カメラの先端に搭載された超音波の装置で、通常の画像検査では診断することのできない膵臓、胆のう、胆管にできる早期がんなどの小さな病変を発見するための検査です。

消化管の内側から検査するため、腹部エコー検査に比べて体形や消化管ガスに影響されずに詳細に病変を観察することができ、5mm程度の早期膵がんも発見することが可能です。



MRI(MRCP)検査



腹部エコー検査(US)



超音波内視鏡検査(EUS)

## 医大の膵がんドックの特徴

### (1) 快適な検査

すべてのプランで控え室(個室)を準備していますので、ゆったりと検査を受けていただけます。

### (2) 充実のチーム医療

検査及び結果の検討は膵がんセンターの専門家がチームで行います。検査結果について

は、約1週間後に来院していただき、消化器内科医師から説明させていただきます。

### (3) 検査後も安心

万が一病気の疑いがあった場合は、当院での精密検査や治療を受けていただくことができます。

## 申し込みについて

膵がんドックはすべて予約制で、毎日(平日のみ)1名の受付となっています。プランを選んでいただ

いた上で、下記電話予約センターにお電話いただき、予約してください。

ご予約電話番号 ☎ 073-441-0489

【受付時間】 8:30 ~ 16:00 まで (土・日・祝日・年末年始を除く)

# うつ病に対する反復経頭蓋

## うつ病とは

うつ病とは、憂うつな気分、無気力、食欲の低下、睡眠障害などが続いて日常生活に支障をきたしてしまう病気です。うつ病は主要な精神疾患の一つであり、厚生労働省からの報告によると、うつ病の生涯有病率（これまでにうつ病を経験した人の割合）は3～7%となっています。

若年層から高齢者まで幅広い年代で見られる疾患であり、当事者やご家族の生活の質（QOL）に大きな影響を与えるだけでなく、就労困難の要因となることも多いことから社会経済上の問題としても

大きく取り上げられています。抗うつ薬や抗不安薬による薬物療法や、精神療法、環境調整などが治療の主体となりますが、これらの治療で効果が不十分な場合への新たな治療法として反復経頭蓋磁気刺激治療（rTMS治療）が開発され、様々な臨床研究を経て日本においても2019年6月から保険診療の適用となりました。そこで今回、うつ病の新規治療法として注目を集めているrTMS治療について紹介します。

## 反復経頭蓋磁気刺激治療（rTMS治療）について

反復経頭蓋磁気刺激治療（rTMS治療）では、磁気的作用により非侵襲的に脳内に電流を誘導して神経細胞を刺激します（図1）。当院では2020年10月に神経精神科病棟にrTMS治療機器が設置されました（写真1）。

rTMS治療では、神経精神科の病棟に入院していただき、左の前頭部への磁気刺激を1日約40分、週に5日、4週～6週間続けます（写真2）。

rTMS治療は、18歳以上で、中等度以上のうつ

症状があり、抗うつ薬による十分な薬物療法によっても期待される効果が認められない患者さんが対象となります。ただし、人工内耳、脳内の磁性体クリップ、心臓ペースメーカーをお持ちの患者さんは対象外となります。その他にもrTMS治療を受けられるか慎重に検討することが必要な条件がいくつかありますので、詳細については担当の医師にお尋ねください。



図1



写真1

# 磁気刺激治療 (rTMS治療)



写真2 rTMS 治療の様子 \*モデルは神経精神科のスタッフです。

## 治療の効果と副作用について

日本精神神経学会反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) 適正使用指針によると、お薬による治療に rTMS 治療を併用した場合、30～40%の患者さんで重症度が半分程度になると言われています。また、15～30%の患者さんでうつ病の症状がほぼ消失するという報告もあります。rTMS 治療で効果のあった患者さんにおいて、6か月から12か月の間での再発率は10～30%と推定されています。

rTMS 治療は従来の薬物療法、電気けいれん療法 (ECT) に比べて副作用が少ない治療法です。頻度

の高い副作用としては、頭皮痛・刺激痛 (30%前後)、顔面の不快感 (30%前後)、頸部痛・肩こり (10%前後)、頭痛 (10%未満) があります。重篤な副作用としては、けいれん発作 (0.1%未満)、失神 (頻度不明) があります。その他の副作用 (頻度小) として、聴力低下、耳鳴りの増悪、めまいの増悪、認知機能変化、局所熱傷などがあります。

治療にあたっては、神経精神科の病棟に入院していただき、治療効果と副作用を十分に観察できる環境で治療を提供します。

## 県内におけるrTMS治療

rTMS がいよいようつ病診療に臨床応用されることになりました。rTMS 治療の保険診療にあたっては様々な施設基準が設けられており、和歌山県内で

は当院のみが実施可能な施設となっています。最新の治療機器を有効に利用して、県民の皆さまのうつ病診療に貢献していきたいと思っております。

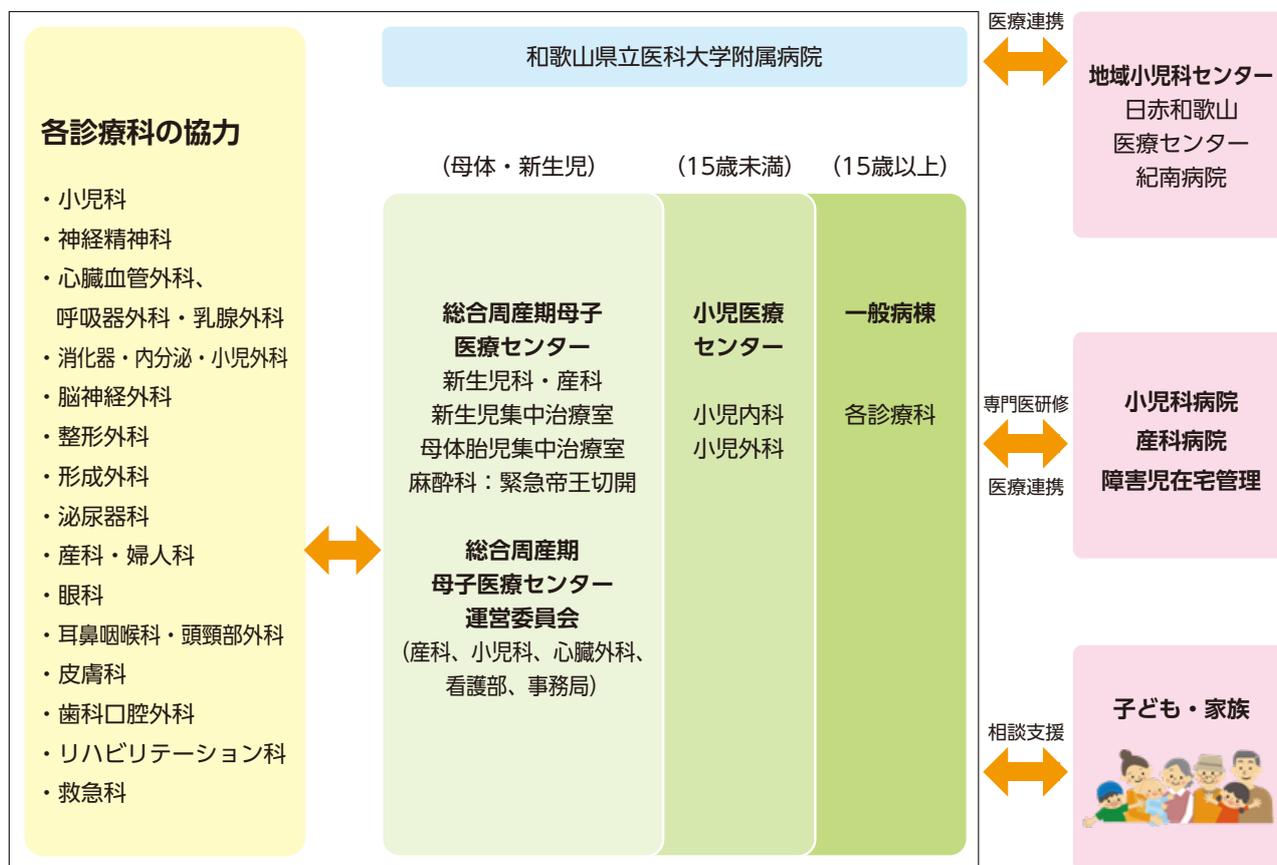
## 小児医療センターの中央部門化について

小児医療センターという病棟の呼称は、平成25年12月に7階東病棟にあった小児内科病棟が10階東病棟に移転し、内科系・外科系共同の小児専用病棟となった際に始まりました。県内の小児周産期医療の中核機関として、胎児期から思春期までの子どもに対する最適な高度専門医療の提供やその家族等への様々なケアを主導することを目的に小児医療センターが設置されました。それまでは、小児病棟は小児内科病棟であり、外科系の患児はそれぞれの外科病棟に入院していましたが、小児医療センターが10階東病棟に開設されたのを機に、内科系と外科系の関連各科を合わせて15科から入院の必要な患児を受け入れる共同病棟となっています。

近年、児童虐待や慢性疾患を抱え成人期に移行する子どもの増加など、小児医療を取り巻く環境はより多様化、複雑化し、小児科単独の運営

では十分な対応が困難な状況となっており、諸課題に積極的に取り組むには、内科系・外科系診療科との密接な協力体制の構築がこれまで以上に重要となってきました。

そこで、この度、同じ目的意識を持った各科が有機的な連携を図ることにより、和歌山県内の子どもの病気は、当院の小児医療センターで解決できる体制を構築するために、小児医療センターの中央部門化を実現しました。この組織を有効に機能させるために、関連診療科から運営委員を選任し、春夏の学校休暇中に集中しがちな予定入院の調整だけでなく、複数の診療科にまたがる小児疾患に対して緊密な連携を行い、病気を持つ子どもだけでなくその家族を支援し、信頼される医療体制を構築していきたいと考えています。何卒、皆様のご協力・ご支援をお願いいたします。



## 美容後遺症外来の開設

超高齢社会である日本では、エイジングケアへの関心は急速に拡大し、美容医療に対するニーズは極めて高くなっています。その反面、美容医療による後遺症に悩む方も少なくありません。最も多いのは、豊胸や目の下のたるみ、ほうれい線（皺）に対するメスを使わない非吸収性注入物（注射）による施術で、感染や醜形を生じているケースです。

そこで、当院形成外科に国公立の大学病院では全国で初めて「美容後遺症外来」を昨年10月14日に開設しました。当外来は、美容医療を受けたものの、その後遺症について相談できずに悩んでいる患者さんの窓口となり、後遺症の対処療法の提案等により、精神的苦痛を緩和することを目的としています。今後の治療などについて、患者さんと話し合いをしながら対応していきます。診察枠は水曜日午後で予約制となっています。



美容後遺症外来は、水曜日午後で予約制で行っています。



外傷



リンパ浮腫

エイジングケアに対する手術、レーザー、注射はどれも施術される側の美的欲求を満たすものですが、その方法やリスクについて、施術を受けられる方も多方面からの情報収集に努めることが求められています。美容医療は病気に対する診療ではありませんので、保険診療は適用できません。美容後遺症外来での診察もすべて自費診療となります。

### 【美容・後遺症相談料】

項目	単価（税抜）
30分まで 1回につき	7,970円
1時間まで 1回につき	12,880円
1時間以降 30分毎	6,440円

形成外科では下記の疾患を取り扱っています。

#### 外傷

- \* 顔のけが（顔面骨折）
- \* 手足の外傷（切断指）
- \* 熱傷（やけど）
- \* 熱傷や手術後の癒痕（傷痕）

#### 腫瘍

- \* ケロイド（盛り上がった傷痕）
- \* 体表のできもの（赤あざ、ほくろ、脂肪腫）

#### 先天異常

- \* 唇裂・口蓋裂、顔面裂、小耳症（顔の欠損）
- \* 顎変形症（受け口）
- \* 合指症・多指症（手足の欠損・変形）
- \* 臍ヘルニア（でべそ）

#### その他

- \* 顔面神経麻痺、眼瞼下垂症（顔の変形）
- \* リンパ浮腫（手足のむくみ）
- \* 顔・舌、乳房の再建（がん治療後）
- \* 腋臭症（わきが）
- \* 睫毛内反症（逆まつげ）
- \* 褥瘡（床ずれ）
- \* 難治性潰瘍（足の壊死）

## 薬学部の設置が認可されました

令和2年10月23日に本学の「薬学部」が文部科学大臣の設置認可を受け、これにより本年4月から既存の医学部、保健看護学部に加え、新たに薬学部を開設することが正式に決定しました。1学年100名の定員で6年制の薬学科を開設します。

これによって、和歌山県で唯一の薬学部が誕生することになり、近畿地方においても初めての公立の薬学部創設になります。キャンパスは伏虎中学校の跡地、市役所の横に最近完成しました（写真1）。

本学に薬学部が加わることで医療系総合大学となり、従来は2学部で行っていたケアマインド教育（患者さんの気持ちに寄り添うことができる教育）をこれからは学部の壁を超えて3学部で行います。今後はより一層患者さんの目線に立った医療を提供できる人材の育成を行なっていきたいと考えています。

本薬学部では、養成する人材像として「高い実践能力を有する薬剤師」「地域で活躍できる薬剤師」「国際的に活躍できるファーマシストサイエンティスト（薬剤師科学者）」を掲げています。教員一丸となってこれらの人材像実現に向けて全力で教育を実施していきます。6年後には附属病院での診療や和歌山県の医療に貢献できる薬剤師を育てていきたいと考えています。また同時に国際的に活躍できるファーマシストサイエンティストの育成にも尽力します。

入学試験には、一般選抜の他に学校推薦型選抜（全国枠、県内枠）を設けました。特に県内枠は和歌山県の高等学校を卒業する方、保護者が県内在住の受験生のための制度です。この制度で合格した学生に対しては、地域医療の意義や重要性を実感していただくために卒後2年間の研修を和歌山県内の医療施設で行います。

また4月からは附属病院に隣接する場所に「次世代医療研究センター」を開設することになっています（写真2）。この施設を使用して附属病院、医学部、保健看護学部との共同研究も進めてまいります。また企業誘致を行うことで、より良い医療を提供するための研究も開始します。さらに、本学発の新規医薬品の創製を目指して研究を推進してまいります。

薬学領域での教育や研究を通して和歌山県の医療に貢献し、その成果を世界に発信できる学部を目指してまいりますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



写真1 薬学部校舎（伏虎キャンパス）



写真2 次世代医療研究センター（紀三井寺キャンパス）

## 認知症疾患医療センター 第9回市民公開講座を開催しました

10月10日に本学講堂にて、認知症疾患医療センター 第9回市民公開講座を開催し、104名の方が参加されました。今回は「認知症の心や行動の症状（BPSD）とケア」というテーマで、当院の医師、臨床心理士、認知症看護認定看護師、作業療法士が講演を行いました。

BPSDとは認知機能障害によって生じる不安や幻覚（心理症状）、暴言・暴力や睡眠障害（行動症状）等の症状のことです。すべての認知症の方に見られるわけではありませんが、ケアをする上で問題となることが多いと言われています。

講演では、医師からBPSDの基本的な知識、臨床心理士からBPSDが生じている時の認知症の方の「こころの中」について、認知症認定看護師からは実際の関わり方について、それぞれお話ししました。また作業療法士からはBPSD予防には運動が良いとのことで、実生活でも取り入れやすい運動法について動画を交えながら話しました。

参加者からは「明日から使える内容ばかりだった」、「認知症を理解することが認知症の方とうまく生活していく基本であることがわかりました」等の感想が寄せられました。



## リウマチ・膠原病センター地域連携講演会～開設4周年記念講演会～開催

令和2年11月19日18時30分から、当院中央棟4階臨床講堂Ⅱにおいてリウマチ・膠原病センターの開設4周年を記念した地域連携講演会を開催しました。当日はWebでの配信も併せて行い、16名の連携登録医の先生にもWebで参加いただきました。

基調講演では、当院の藤井隆夫リウマチ・膠原病センター長から「2019-2020 リウマチ・膠原病センターの活動業績について」と題し、①リウマチ・膠原病センターの入院・外来の状況、②リウマチ・膠原病科で行い論文文化された研究や多施設共同研究、また③コロナウイルスとリウマチ性疾患について紹介しました。まだまだ改善すべき点が多いものの、外来および病棟診療においては患者数が増えていることを示し、また関節リウマチ患者が高齢化していることも報告しました。

また、特別講演として、湯川温泉診療所院長の生馬敏行先生をお迎えし、「RA治療中における免疫状態の簡易モニター法について」というテーマでご講演いただきました。生馬先生は和歌山県のリウマチ診療に長年携わってこられ、当院のセンター設立にもご尽力いただいています。講演では、これまで研究されてきた免疫状態の簡易モニター法や和歌山県のリウマチ診療

の歴史についてお話しいただきました。

今後も地域の医療機関との連携を図りながら、県内のリウマチ・膠原病診療および研究・教育の充実のため取り組んでまいる所存です。今後とも和歌山県立医科大学附属病院 リウマチ・膠原病センターをよろしくお願いいたします。



リウマチ・膠原病センター長 藤井隆夫教授



湯川温泉診療所 院長 生馬敏行先生

## パーキンソン病の精神症状を引き起こす脳内ネットワーク異常を解明

パーキンソン病は、脳内ドーパミン神経の減少により動きの鈍さ、手足のふるえなどが徐々に進行する疾患です。近年、こういった運動症状以外にも、抑うつ、自律神経障害（便秘、頻尿、起立性低血圧）、衝動制御障害など、様々な非運動症状が問題となっています。この中でも、病的賭博、性欲亢進、過食、買い物依存などを含む衝動制御障害は約13%の患者で認められ、患者やその家族に重大な影響を及ぼしています。しかし、衝動性亢進に関する脳の病態生理に関しては未だ不明な点が多く、その解明が急務となっています。

このような状況のなか、当院の脳神経内科学講座及び生理学第1講座の研究グループでは、安静時機能的MRIを用い、パーキンソン病の衝動性亢進に関連する脳内ネットワークの異常について研究を行いました。

その結果、認知衝動性が高いほど、物事の認知・実行に参与する右前頭頭頂ネットワーク (FPN) と視覚の中樞を担う内側視覚ネットワーク (MVN) 間の機能的結合性が有意に強いことが分かりました。また、運動衝動性が高いほど、安静時に活動

が亢進するデフォルトモードネットワーク (DMN) と、DMN と FPN の間の切り替えを仲介する顕著性ネットワーク (SN) 間の機能的結合性が低下していることが判明しました。

今回の研究成果により、パーキンソン病の衝動性亢進の背景には、特定の脳内ネットワーク異常が関連していることが示唆され、今後のさらなる病態解明や治療法開発の重要な知見となることが期待されます。



記者発表する脳神経内科学講座 高 真守助教 (左)、伊東秀文教授 (中央)、生理学第1講座 金桶吉起教授 (右)

## 胃のペースメーカー活動と運動性の同時測定に成功

本学生理学第1講座では、システムとしての脳機能を解明することを目指し研究を行っています。近年消化管の機能が脳や全身の病気にも関係していることが分かってきており、金桶吉起教授と堂西倫弘助教らのグループは、胃のペースメーカー電位活動と運動性に着目し、24名の男女を対象に胃電図及び高速MRIの測定を行いました。

胃には心臓と同じように一定の周期で電気信号を送るペースメーカー細胞があり、1分間に3回の収縮を行っています。これを「ペースメーカー電位」といい、胃電図として、腹部に貼り付けた電極により記録することができます。今回の研究では、この胃電図と胃の運動性（収縮）が本当に比例しているのかを確認するため、1秒間に2スライス的高速（シネ）MRIによる胃の運動評価を同時に行いました。

その結果、胃の矢状断断面変化の周期及び大きさは胃電図とほぼ一致しており、正常ではペースメーカー電位と胃の収縮はほぼ比例することが分かりました。一方で、周期や大きさの変化が一致しない場

合は何らかの病気の可能性があることが示唆されました。胃のペースメーカー活動に伴う運動性をヒトで非侵襲的に正確にとらえたのは世界初であり、今後この方法により胃の運動障害の原因を詳細に検討することで、機能性胃腸症の病態解明、また脳の病気の早期発見及び免疫疾患などの全身疾患の症状緩和に役立つ可能性があります。



研究結果について説明する金桶吉起教授

## 待合番号アプリのご案内

「病院待合番号アプリ」をインストールすることにより会計の計算完了済みの番号や外来の順番をスマートフォンでご覧いただけます。食堂・コーヒーストップ・喫茶店、駐車場でも順番を確認できますので、待ち時間を有効に使っていただけます。

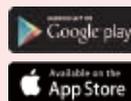
アプリのダウンロードの方法については、各外来のソファの背面に説明書きを掲示しているほか、総合受付前で職員が定期的にダウンロードの方法を案内していますので、ぜひお気軽にお声をかけてください。



アプリの  
ダウンロード



左のQRコードから  
アプリをインストール



Google play か App store から  
「スマパ」で検索しアプリをインストール

② 「和歌山県立医科大学附属病院」を選択して「OK」ボタン

④ 診療科の画面が表示 診療科名もしくは▷を選択

① アプリを開く



③ 「待合番号」を選択



## がん患者・家族、 県民のための公開講座 「医療者とコミュニケーションとれて いますか？賢い患者になりましょう」

日時：令和3年2月11日（木・祝）

13:30～15:00（受付13:00～）

場所：ホテルアバローム紀の国 2階 鳳凰の間  
（和歌山市湊通丁北2-1-2）

※駐車場に限りがありますので公共交通機関をご利用ください。

講師：山口 育子 氏 **中止になりました**  
NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長  
『賢い患者』著者

定員：150名（先着順で定員になり次第終了）

※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、中止する場合がありますので、ご了承ください。

お申し込み・お問い合わせ  
患者支援センター  
TEL 073-441-0778  
FAX 073-441-0862



入場無料・申込必要

## 寄附の受け入れ

この度、大阪府在住の西川様から、「隣がんの研究推進および向上のために役立てていただければ。」と多額のご寄付をいただきました。

当院といたしましては、西川様のご意向に沿った形で、有効に活用させていただく予定です。

本当にありがとうございました。

## 青洲基金について

本学では、医療系総合大学としての一層の発展を目指し、教育研究の向上事業、附属病院の環境整備事業及び修学支援基金事業等に活用させていただくため、基金を設置しています。詳細は下記ホームページをご確認ください。

本基金の趣旨をご理解いただき、格段のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公立大学法人和歌山県立医科大学 総務課 基金担当

〒641-8509 和歌山市紀三井寺811番地1

TEL 073-441-0710 FAX 073-441-0713

E-mail kikin@wakayama-med.ac.jp

青洲基金ホームページ

<https://www.wakayama-med.ac.jp/usermenu/seishu-kikin/>

## 予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。  
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などから FAX でお申し込みください。

### ■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて患者支援センターに FAX 送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関に FAX 返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

**患者支援センター**  
FAX 番号：073-441-0805  
受付時間：月・火・水・金 9:00～19:00  
木 9:00～17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

### ■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。  
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② **「当院予約センター」**に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

**電話予約センター**  
電話番号：073-441-0489  
受付時間：月～金 8:30～16:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

## マスク着用及び検温へのご協力をお願い

当院では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、来院者にはマスクの着用をお願いしております。

また、正面玄関及び東玄関において午前8時から午後3時まで、サーモグラフィによる検温を実施しております。カメラの前を通過していただくだけで体表面の温度を計測することができます。

患者さんに安心して受診いただけるよう努めておりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



### 患者さんの権利

当院では、受診される皆様は、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

### 患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。